

第1章 総論

1. 総 論

1.1 ライフセービングとスポーツ

ライフセービングとは、水辺の環境の安全性を高め、水の事故から人の命を救うための活動である。日本ライフセービング協会（JLA）は、救命、スポーツ、教育、福祉、環境をテーマにライフセービング活動を展開している。JLA は、国際ライフセービング連盟（ILS）に加盟し、世界的なライフセービング組織の一員としてライフセービング活動を行っている。また、ILS は、国際オリンピック委員会からライフセービング競技の国際的な組織として承認されており、今後ライフセービング競技の更なる普及・発展が期待されている。JLA は、原則として本競技規則を ILS の競技規則に準拠させ国際的な基準に合わせたライフセービング競技の普及・発展を目指している。

ライフセービング競技は、スポーツを通してライフセービングの知識や技能を高めるとともにフレンドシップを築きライフセービングを普及・発展させるために重要な役割を持っている。また、ライフセービング競技種目は、いずれもレスキューを想定して競技化されたものである。競技のために努力した過程は、水辺で安全に活動するための体力や技能を身に付け、さらにレスキューにも生かされる。仮にフェアでない行為をして勝ったとしても、レスキューすることができる能力にはならないのである。したがって、ライフセービング競技はフェアの精神に則って行われる。

1.2 ライフセービング競技会

1.2.1 国際的なライフセービング競技会

ライフセービング競技の国際的な競技会は、ライフセービング世界選手権（現在の Lifesaving World Championships: LWC, 2014 年までは Rescue シリーズ）とワールドゲームズがあげられる。1992 年には静岡県下田市でライフセービング世界選手権（Rescue' 92）が開催され、日本におけるライフセービングの普及に大きな影響を与えた。また、ワールドゲームズとは、国際スポーツ団体連合に加盟しているスポーツの中で、オリンピックで行われている以外の競技種目が行われるスポ

ーツ・イベントである。ライフセービング競技は1989年カールスルーエで開催された第3回大会から正式種目となり、2001年第6回大会は秋田県で開催された。これら世界選手権やワールドゲームズでは、日本からメダリストが誕生しており、日本のライフセービング競技の競技力は著しく向上している。

1.2.2 日本におけるライフセービング競技会

日本におけるライフセービング競技の始まりは、1975年に神奈川県鎌倉市材木座海岸で開催された第1回ライフガード大会であるとされている。当時の競技種目は、素手での救助方法を競い合うものやカッターレースなどが行われていた。その後、年に1回開催されていたこの大会は、1987年第13回大会からインタークラブ・ライフセービング選手権と名称を改め、この大会から世界基準のオーシャン競技種目が多く導入されるようになった。その背景には、当時オーストラリアとの間で行われていた豪日交換プログラムによるライフセーバーの人的交流が大きな影響を与えていた。1989年からはインタークラブ選手権とは別に全日本選手権が開催され、1991年にはインタークラブ選手権を全日本選手権に併合し現在の全日本選手権に受け継がれている。また、1986年から静岡県下田市白浜海岸でジャパン・サーフカーニバルが開催され2004年から全日本種目別選手権に名称を変更している。さらに、日本では地域クラブとともに多くの学校クラブ設立に伴い1986年神奈川県藤沢市辻堂海岸にて第1回全日本学生選手権（プール）が始まった。1988年からは第1回全日本室内選手権が開催されるようになり2010年には第1回全日本学生プール選手権が行われた。これらの競技会はJLA主催競技会として毎年開催され、現在の全日本選手権では約1,300名の選手が参加している。

